

# 檜山の祭り

檜山には、夏、あるいは秋の数日、まちが沸騰する、と言って過言でないほど大いに盛り上がる祭りがあります。神輿のあとに山車が続く光景の中に、連綿と続く歴史と数限りないドラマがあり、その日・その瞬間のために、人々はすさまじい熱量を注ぎます。

さて、その祭りは北前船が連れてきたもの。江差町を筆頭に、関西や京都といった上方文化の影響を受けた北前船の就航地に根づき、発展を続けました。山車を「だし」でなく「やま」と呼ぶのも、京都祇園祭の流れを汲む証。ここでは、江差町、乙部町、せたな町の祭りをご紹介します。祭りの時期はその“沸騰”をめがけ、大勢の旅人もまちを訪れます。

## 一 姥神大神宮渡御祭 [江差町]

宵宮/8月9日 本祭/8月10-11日

## 二 乙部八幡神社例大祭 [乙部町]

宵宮/8月14日 本祭/8月15-16日

## 三 真駒内神社例大祭 [せたな町]

宵宮/9月14日 本祭/9月15日



姥神大神宮



乙部八幡神社



真駒内神社

## 個性豊かな檜山の神社 卍

遅くとも中世には創建されていたといわれ、松前神楽など独自の文化が発展した南北海道の神社。檜山地域にも特徴のあるものが多く、たとえば乙部八幡神社は「八幡さんの水」と呼ばれる由緒ある湧き水が有名。せたな町・太田神社も「断崖絶壁」という唯一無二の個性を持ち、また、江差町・笹山稲荷神社には「成長する」という伝説をもつ木彫り熊が奉納されている。



笹山稲荷神社の木彫り熊



檜山の祭り一

## 姥神大神宮渡御祭

[江差町]

## 北海道最古で道南一の大祭。 8月は、江差人の血が騒ぐ。

その歴史はゆうに370年を超え、神輿のあとに山車が続く形態にしても、少なく見積もって約300年。江差町・姥神大神宮の祭りは、北海道最古といわれており、檜山一、いや道南随一の盛大さを誇ります。

脈々と紡がれてきた歴史の中で、まちがひとつになって祭りを盛り上げる背景には、子ども時代からの関わりも理由のひとつです。はじめは山車を引く手伝いから、小学生になると太鼓を叩き、笛を鳴らし、中学生では山車の上で電線を避ける「線取り」という役割に。“先輩”への憧れの連鎖が祭りへの意気込みを高め、やがて大人になったときの「舵取り」、そして最高責任者である「頭取」まで続いていきます。

豪華な13台の山車が錦の御旗をひるがえし、流暢な祇園囃子の調べにのって町内を練り歩く。かつてのニシン景気をきっかけにはじまり、そしてまちで育まれた、夏の大祭です。



## 江差人の1年は、祭りが軸。

渡御祭に地元に戻るののできない娘や息子に向け、母親が電話の受話器を外に出し、祭りの音を聴かせるという風景も見られるほど、祭りは江差人の精神的支柱。